ＮＰＯ法人 東亜天文学会名古屋支部例会資料　　　　　　2020.02.08 吉田孝次

**１．デジタル天体写真の最微星について考える**

１） 等倍画像で最も暗い星を探す　　⇒　薄明、薄暮、街中では暗い星は見えない

　（１）画像上の星の明るさと背景のカブリの調整が必要

→① カブリを抑えると星の明るさを下がる

→トーンカーブを調整してカブリを抑える

　（２）ＳｉｒｉｕｓＣｏｍｐ64などを使って星のコントラストをあげる

少し改善されるが、暗い星は見つけにくい（星像が小さいことも原因）

２）モニタ上で拡大すれば暗い星が見つかる

　（１）最近使用し始めたカメラ（FUJIFILM X-Pro2) のRAWFILE CONVERTER 3

というRAW現像ソフトに25％、50％、100％、200％、400％という拡大の

ほかズームフライダーで1600％まで拡大できる機能があることがわかり使用して

みた。

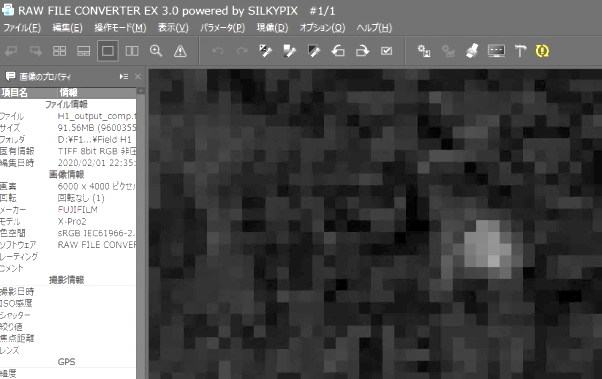
　（２）50％で暗い星に少し気づく。

　（３）400％で明るいピクセルとグレーのピクセルで星の画像ができていることがわかる。

**最微星が判明する**

**３）ギモン:**

**グレーまたは明るいピクセルがいくつ集まれば星といえるか？**

 **使用レンズはXF23/2 X400拡大**